札幌禎心会病院 アートのご案内

「アートは人類の最も偉大な発明の一つ」

チップ・ウォルター
ナショナルジオグラフィックより

アートには
色々な方々の心を癒やす
力があると信じています

患者さんやご家族のみならず
ご来院の皆様そして職員のために
心に届くヒーリングアートを設置しています

是非ご覧ください

札幌禎心会病院 院長　徳田禎久

2階 総合受付壁面

ピンネッシリの光　Flash of Pinneshir

2015年 五十嵐威暢 作

陶、150x150x150mm 17連作

札幌市の北東、石狩湾の先にたたずむ樺戸連山。お天気がよい日には、当院からも望めます。
朝陽と夕陽に輝く荘厳な山々の最高峰は、アイヌ語で男の山の意を持つピンネッシリ。
17点の陶彫刻は、作家が手や足など身体を直接粘土に委ねることで造形し、山々への畏敬の念を表現した作品です。

3階 階段上

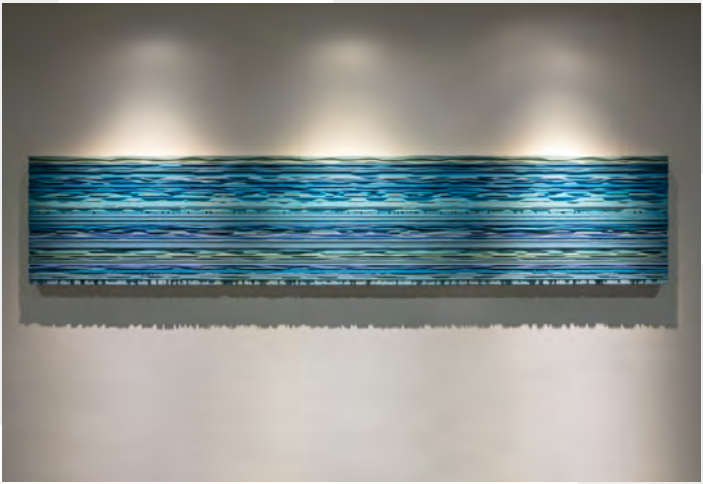
森に捧げる詩　Homage to The Forest

2008年 五十嵐威暢 作

ステンレス、W890xH400xD200mm

雨の日も、雪の日も、たとえ今は見えなくとも、やがて空の向こうから太陽が顔を覗かせ、木々の隙間からは光が降り注ぐでしょう。長く続く暗い夜でさえも、夜空には幾千万もの美しい星が輝き続けています。

自然界の様々な姿は作者の記憶の断片となり、即興で象られ、今ここに集まり光を通し、森の詩を奏でています。



3階 廊下壁面

水音　Horizontal Feeling – Mizunone

2019年 五十嵐威暢 作

木各種・アクリル絵具、W3000xH600xD55mm

広大な風景に出会うとき、私たちは自然界の「美」に心震えます。「青」のグラデーションは、どこまでも続く青空や果てしなく広がる大海原を彷彿とさせてくれます。
1本ずつ細く長い木を彫刻し、丁寧に色を塗る。
地平線や水平線を目にした作者の「水平な気分」が、ゆったりと穏やかに伝わってきます。

3階 廊下壁面

眠りの前に　Before I sleep

2001年 五十嵐威暢 作

木・竹・墨汁・絹弦、W710xH1140xD100mm

カリグラフィシリーズと呼ばれるこの作品は、立体の書のようであり、「結ぶ」という技法で制作されています。
糸偏の糸には人と人との結びつきが、吉には神様への祈りが表されている「結」というキーワード。
夜、眠りにつく前に、その日を振り返り明日への抱負を思い描く。
静かな意志が込められているのかもしれません。

3階 廊下壁面

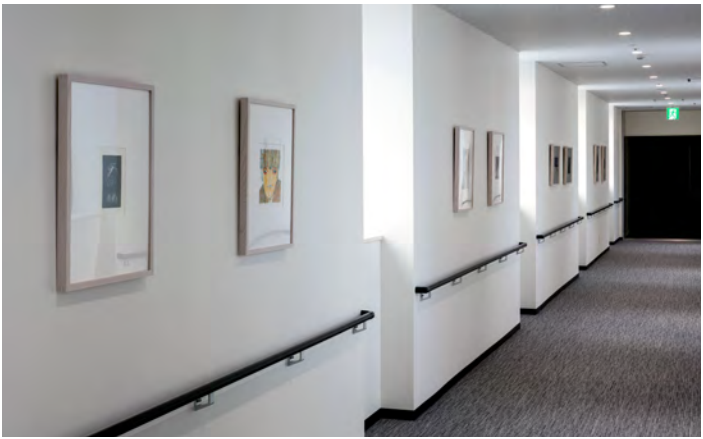
瞬間　Moment

2000年 五十嵐威暢 作

木・アクリル絵具・絹弦、W1350xH1030xD200mm

作者の五十嵐氏は、作品制作の際にスケッチを描きません。
方針はあるけれど、出来る限り計画せず、直接素材に向き合い、
即興で制作する。音楽で言えばジャズのようです。
太陽の光に見えたり、向日葵が咲いているように見えたり、鳥が
大きな羽を広げて飛び立っていく様に見えたりもします。
音楽と同様、きっと、感じるままでよいのでしょうね。

多摩美術大学 版画ギャラリー



当院3階の廊下壁面には、16点の版画作品を半年ごとに入れ替え、常時展示しております。

銅版画、木版画、リトグラフ（石版画）、シルクスクリーン、デジタルプリントなど、様々な表現で制作された現代版画は、多摩美術大学版画学科の学部及び大学院での卒業・修了制作の一貫として制作された作品です。

日本の版画は、浮世絵をはじめ、その手法や表現に於いて、世

界から高い評価を受けておりますが、多摩美術大学は1992年に日本で最初に本格的な版画カリキュラムを大学に導入し、以降毎年、学部・大学院合わせて約50名の卒業生を輩出し、現在も世界的に活躍されている版画家が多数いらっしゃいます。

卒業・修了生の作品を一般の方にご覧いただく機会はなかなかございませんが、多摩美術大学版画学科および「日常生活にアートを」と活動されている一般社団法人風の美術館の協力を得て、「北海道版画巡回ギャラリーネットワーク」に参加しております。

美術館でもギャラリーでもない日常の空間で版画の魅力に触れていただきたいと考え、2020年現在、当院の他に、滝川市老人ホーム緑寿園様（滝川市）、新十津川町スポーツセンター様（新十津川町）、士別市立博物館様（士別市）、東川町文化芸術交流センター様（東川町）と連携し、16点の版画は5つの施設を巡回し、展示を継続しております。

元々は印刷を基盤とした版画技法・技術ですが、現在は多種多様に研究開発され様々な表現で進化しています。

どうぞ、多摩美術大学の版画の世界をお楽しみください。

彫刻家・五十嵐威暢氏からのメッセージ

人間だけが、道具をつくり、ものをつくり、アートを生み出した。
世界中で多くの人がさまざまなものをつくり続けている。
つくることの意味とは何か。
脳や手などの身体を鍛え五感を研ぎ澄まし無心でつくると、
想像もしていなかったことが見えてくる。
つくり手を夢中にさせる体験や
喜びをもたらす前向きな発見が見えてくる。

つくることによって人は全身で学び、
つくることによって人は本当の生を得ている。

作者紹介

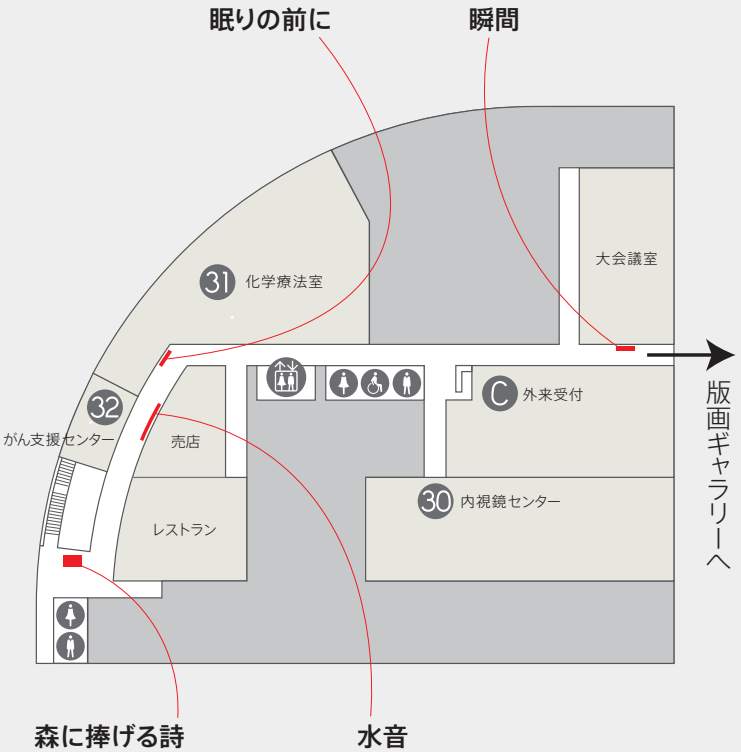
五十嵐威暢・Takenobu Igarashi
彫刻家 / デザイナー

1944年、北海道滝川市生まれ。
グラフィック･プロダクトデザイナーとして活動し、世界的な評価を受けた後、1994年、彫刻家に転身。
新十津川町の旧吉野小学校を改修した自身のアトリエ兼ギャラリー「かぜのび」をはじめ、滋賀県の信楽町、神奈川県の湯河原町などで、木、テラコッタ、金属、石、ステンドグラスなど、様々な素材を用いて数多くのパブリックアートとしての作品を制作。
北海道新十津川町応援大使、アートチャレンジ太郎吉蔵名誉顧問、母校の多摩美術大学では学長を経て現在は名誉教授。
北海道内の主な作品として、JR札幌駅の星の大時計、JRタワーの黄色い風船のロゴマーク、展望室T38やパセオ地下広場のテラコッタ彫刻、滝川市一の坂西公園の鉄の彫刻、大通BISSEの木の吊り彫刻、新函館北斗駅のステンドグラスのレリーフ、札幌芸術の森美術館野外の鉄の彫刻など。

http://www.takenobuigarashi.jp
instagram▸ @takenobu_igarashi

ピンネッシリの光

2F


眠りの前に
瞬間
31 化学療法室
大会議室
32
がん支援センター
売店
C 外来受付
30 内視鏡センター
レストラン
版画ギャラリーへ
森に捧げる詩
水音

3F

札幌禎心会病院 アートのご案内

撮影
酒井広司

編集
羽田麻子、鈴木千章（札幌禎心会病院）

デザイン
羽田麻子

協力
一般社団法人 風の美術館
多摩美術大学版画研究室

印刷
渡辺印刷株式会社

発行
社会医療法人禎心会 札幌禎心会病院
院長 徳田禎久
札幌市東区北 33 条東 1 丁目 3-1
tel 011-712-1131

Ⓒ2020 札幌禎心会病院